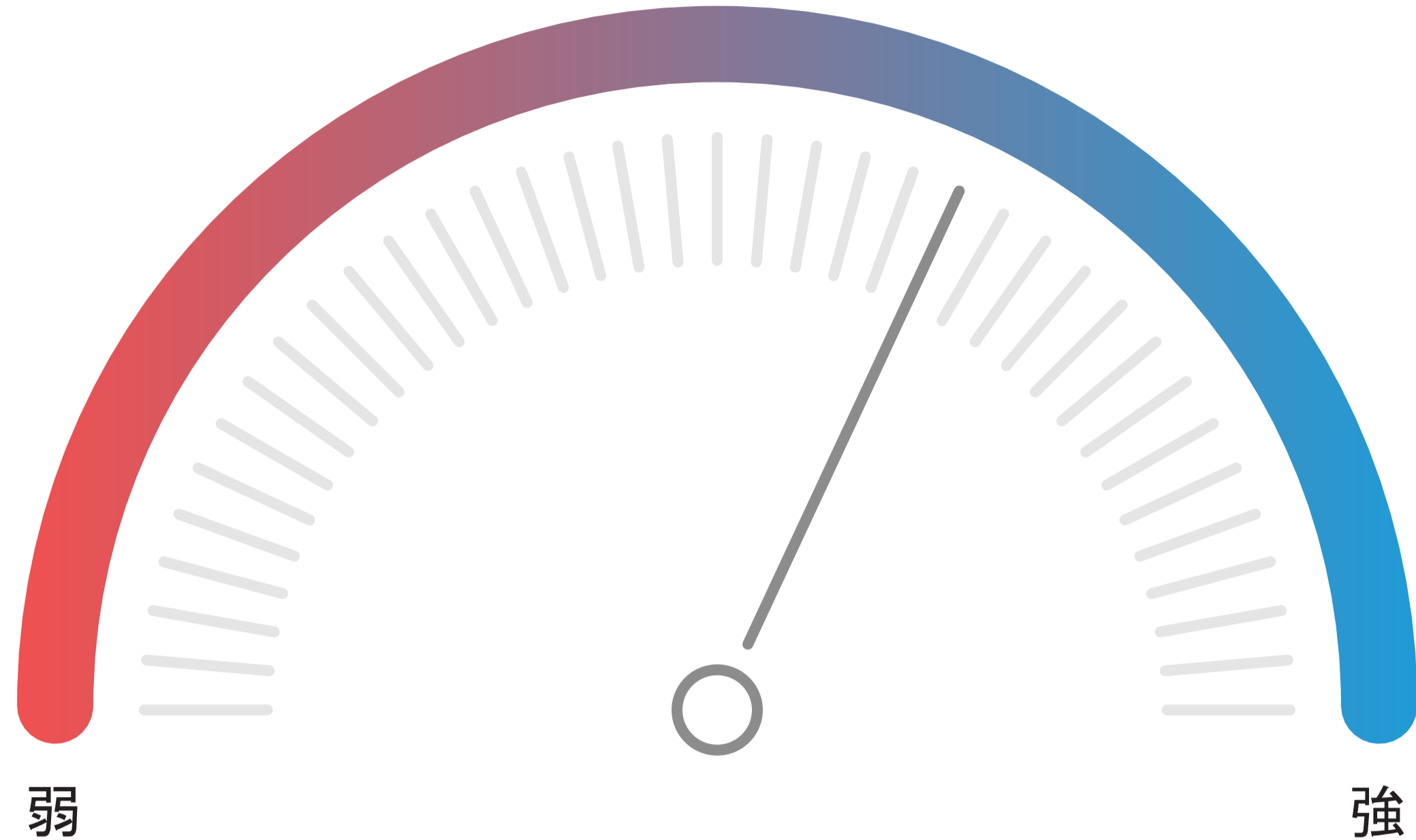


世界景気バロメーター

2017年4月

世界経済の2017年の成長率は、2010年以降では最高となる見通し、インフレ率も当面のピークをつけたとみられる。米国の金融政策の正常化が進む中、世界的に金融政策は緩和縮小の方向にある。

経済成長



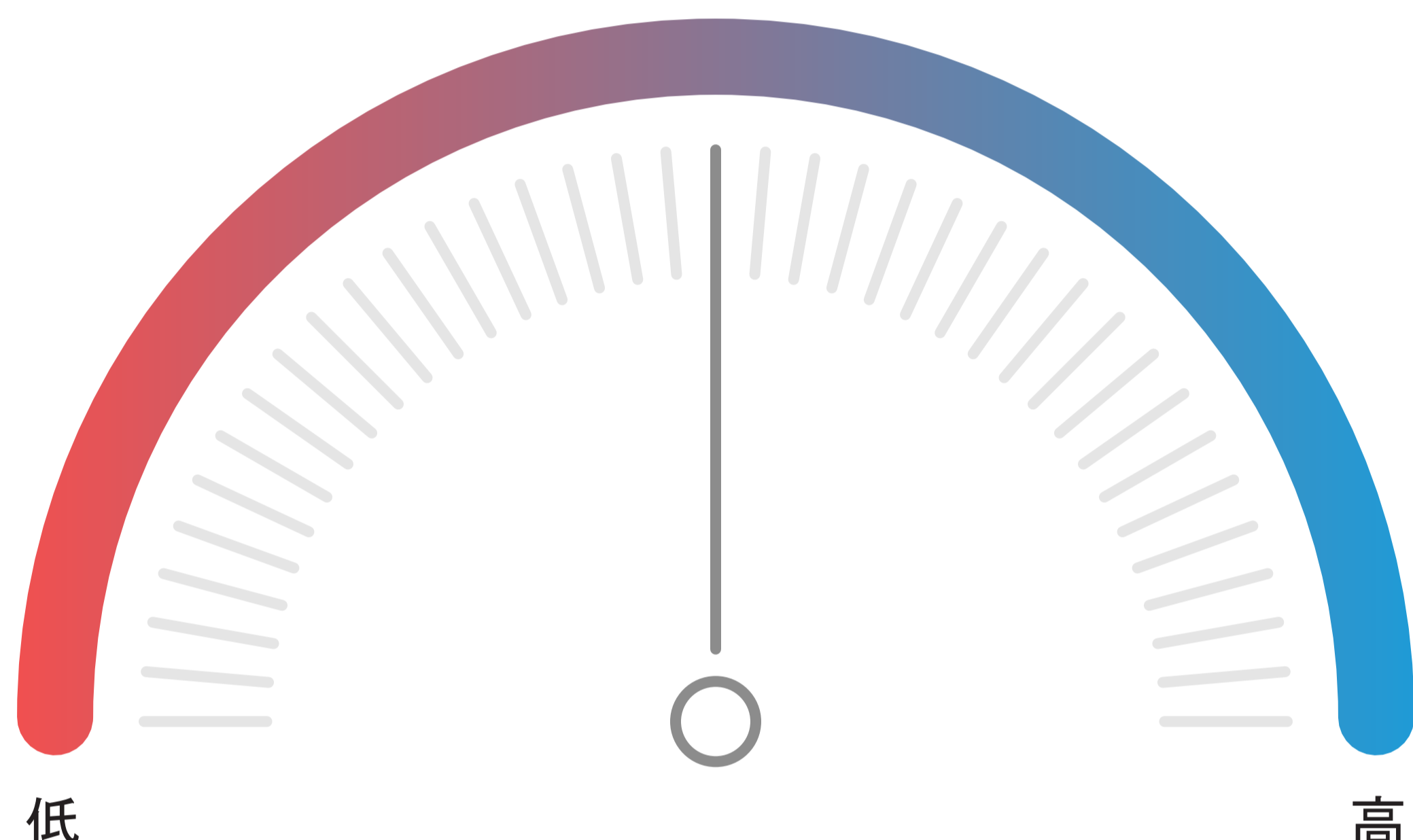
見通し

- + 世界経済の成長率は引き続き穏やかだが、2010年以来の水準
- + 足元の経済指標や財政支出の拡大傾向を見る限り、成長率は上振れする可能性のほうが下振れリスクより高い

リスク

- + 政治的な不透明性と保護主義の台頭
- + 財政による景気刺激策の行き過ぎ、または不発
- + 中国における一部の企業の債務問題と金融引締

インフレ率



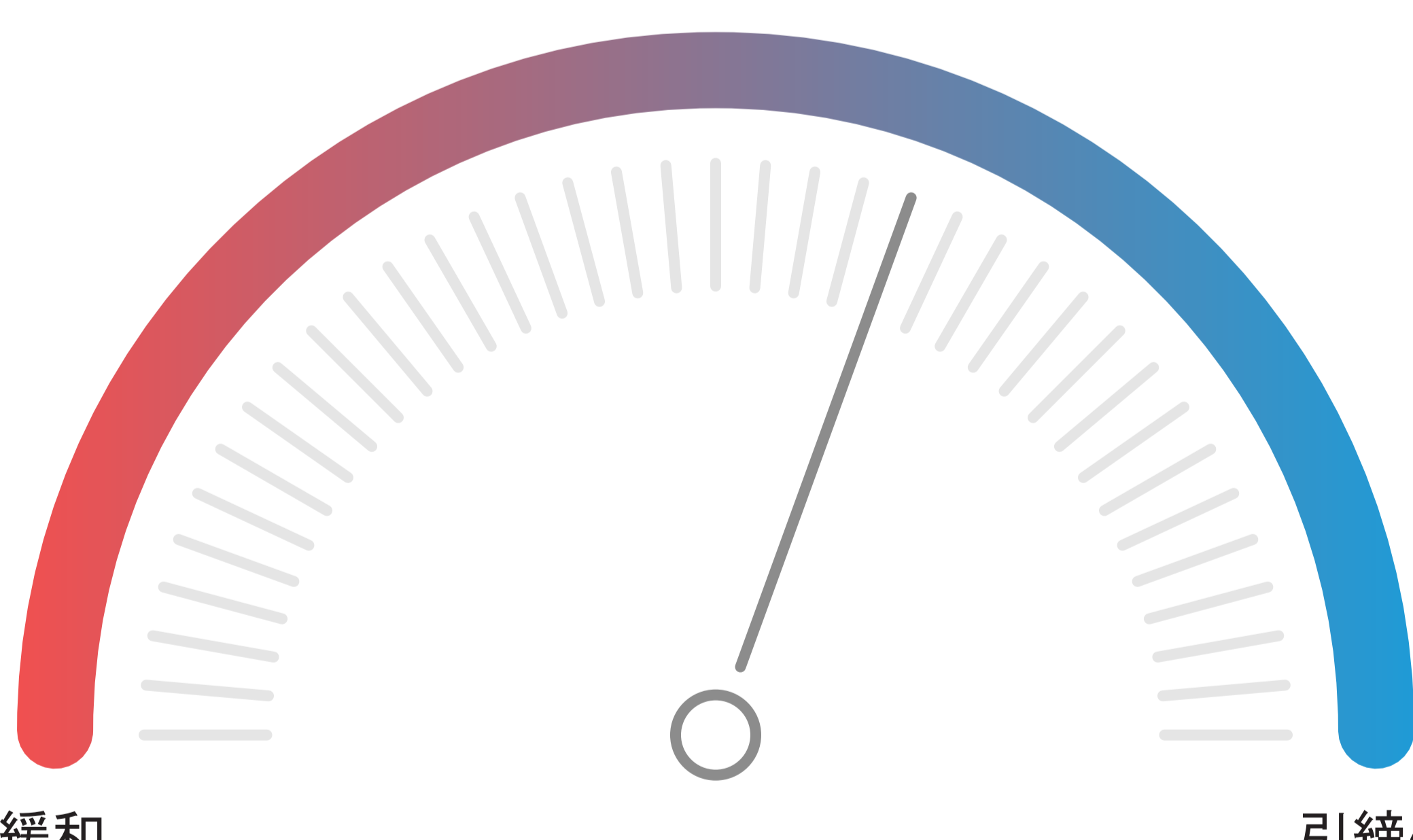
見通し

- + エネルギー価格主導のインフレ率上昇はおおむね一巡
- + インフレ期待の重要性が増し、労働需給や賃金に焦点

リスク

- + (「失業率」と「賃金」の関係をあらわした)フィリップス曲線は今でも有効か？
- + コモディティ市場の需給の不確実性
- + 中国における過剰設備の調整はどの程度に？

金融政策



見通し

- + 米連邦準備制度理事会(FRB)は徐々に金利を引き上げ。2017年末のFF金利は1.38%に達する見通し
- + 日本銀行と欧州中央銀行は、当面大規模な資産買入を継続
- + 2017年後半には上記の基調に変化も

リスク

- + 米政府の財政支出拡大への警戒からFRBがタカ派的スタンスに
- + 中央銀行による資産買入の大幅な削減
- + 欧州の銀行の経営問題

出所: AB

本文中の見解はリサーチ、投資助言、売買推奨ではなく、必ずしもアライアンス・バーンスタイン(以下、「AB」)ポートフォリオ運用チームの見解とは限りません。本文中で言及した資産クラスの過去のパフォーマンスは将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

当資料は、2017年4月12日現在の情報を基にアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーが作成したものをアライアンス・バーンスタイン株式会社が翻訳した資料であり、いかなる場合も当資料に記載されている情報は、投資助言としてみなされません。
当資料は信用できると判断した情報をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また当資料の記載内容、データ等は作成時点のものであり、今後予告なしに変更することがあります。アライアンス・バーンスタインおよびABはアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。アライアンス・バーンスタイン株式会社はABの日本拠点です。

アライアンス・バーンスタイン株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第303号
【加入協会】一般社団法人投資信託協会／一般社団法人投資顧問業協会／日本証券業協会／
一般社団法人第二種金融商品取引業協会
<http://www.abglobal.co.jp>

